

令和5年度 上武大学 大学院 経営管理研究科 シラバス

講義番号		授業科目名	財務会計演習Ⅱ			担当教員	白山 真一		
		英語授業科目名	Financial accounting seminarⅡ			単 位	4	学 期	通年
対象年次	2 年次		クラス指定	なし		他との関連	財務会計特論 A,B		
履修条件	財務会計演習Ⅰを履修していること。								
テーマ・副題	会計理論及び会計制度・実務の現状分析，課題抽出，対応の方向性の提示								
授 業 の 教育目的 ・ 目 標	会計理論及び会計制度・実務に関する修士論文を完成させることを教育目標とする。								
授 業 の 理解度の 到達目標	研究論文としての形式要件を満たしたうえで，鋭い「問題意識」に基づく，質の高い修士論文を完成させることを到達目標とする。								
授業キーワード	国際財務報告基準（IFRS），国際公会計基準（IPSAS），企業会計基準,政府・非営利会計基準 等								
授業の内容	企業会計の制度研究,理論・概念研究,実証研究など，各自の研究論文テーマや研究方法論に応じた授業内容とする。なお，研究テーマは企業会計に限定せず，政府会計，地方自治体会計，非営利会計などの領域を選択してもよい。								
授業の方法	各回とも修士論文の作成過程等を報告してもらい，論文完成に向けた指導を行う。								
授業展開	[前期] 1. ガイダンス（今後の修士論文の作成スケジュールの確認など） 2. 修士論文のテーマ及び問題意識の討議 ① 3. 修士論文のテーマ及び問題意識の討議 ② 4. 修士論文のテーマ及び問題意識の討議 ③ 5. 修士論文の構成内容及び構成ロジック体系の討議 ① 6. 修士論文の構成内容及び構成ロジック体系の討議 ② 7. 修士論文の構成内容及び構成ロジック体系の討議 ③ 8. 修士論文の経過報告 ① 9. 修士論文の経過報告 ② 10. 修士論文の経過報告 ③ 11. 修士論文の経過報告 ④ 12. 修士論文の経過報告 ⑤ 13. 修士論文の経過報告 ⑥ 14. 中間発表 15. 前期のまとめ（後期へ向けた修士論文作成の詳細スケジュールの確認など） [後期] 16. 修士論文の経過報告 ⑦ 17. 修士論文の経過報告 ⑧ 18. 修士論文の中間発表会の準備 ① 19. 修士論文の中間発表会の準備 ② 20. 修士論文の経過報告 ⑨ 21. 修士論文の経過報告 ⑩ 22. 修士論文の第 1 稿の発表と討議 ① 23. 修士論文の第 1 稿の発表と討議 ② 24. 修士論文の第 1 稿の発表と討議 ③ 25. 修士論文の第 2 稿の発表と討議 ① 26. 修士論文の第 2 稿の発表と討議 ② 27. 修士論文の第 2 稿の発表と討議 ③ 28. 修士論文の最終稿の発表と討議 ① 29. 修士論文の最終稿の発表と討議 ② 30. 修士論文の最終稿の発表と討議 ③								
成 績 評価方法	論文の完成内容（60%）を中心に，論点の整理や論文の発表と討議状況（40%）などを総合して評価する。 なお,出席状況が 60%未満である場合には，成績評価が不合格になる場合がある。								

成績評価基準	成績は総合点で 80 点以上を A, 79～70 点が B, 69～60 点が C, それ以下を D とする。			
テキスト	なし			
参考図書	「企業会計」「会計・監査ジャーナル」「経営財務」「税経通信」「会計」などの会計専門紙，関連図書			
準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な学習内容	● 各自の研究論文テーマに対して，発表内容のレジュメや発表原稿の準備を十分にしてくること（最低でも 3～4 時間程度は必要）。 ● 研究論文のテーマを検討する際には，常に「問題意識」を明確にしたうえで，論文構成の「ロジック」を常に明確にするように心掛けること。			
学生へのメッセージ	論文テーマの決定，先行研究及び必要資料のサーベイ，問題意識の明確化，構成案（目次とそのロジック体系）の作成を早い段階で手掛けることが重要となります。担当講師とは，積極的に意見交換をするようにしてください。			
オフィスアワー	主に以下に示したメールにより質問等を受け付けることにする。			
連絡先	電話番号	0274-42-2828（内線：407）	メールアドレス	shirayama@jobu.ac.jp
人数制限	特に定めない。			